頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム
—アジア・アフリカ持続型生存基盤研究のためのグローバルプラットフォーム構築—
報告書

アジア・アフリカにおける持続型基盤の発展に寄与する ものつくり研究の可能性

派 遣 者：金子　守恵
派遣期間：2012 年 10 月 27 日～11 月 15 日
派 遣 先：ディレダワ大学，アジスアベバ大学南オモ研究所（エチオピア連邦共和国）

キーワード：国際エチオピア学会，土器つくり，在来知，継承，学習

1．研究課題について

アジア、アフリカに暮らす人びとは、地域の自然環境、コミュニティ内の社会関係、さらには外部との交流にあわせて、日々の生活に必要なもの（＝日用品）をつくりだしてきた。この研究では、ローカルな技術的実践とグローバルな環境変化や社会的な制度が交差する場としてのものをつくる身体（技法）に注目し、コミュニティにおける知（＝在来知）の共有と配分の過程を描き出すことによって、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展に寄与することをめざす。具体的には、①調査研究、②共同研究／協働、③研究発信の３点に留意して研究課題を遂行する。今年度は、②海外の研究機関との共同研究／協働についての可能性を模索することと③国際学会での発表を介した研究発信に取り組む。

2．派遣の内容

2012 年 10 月 27 日～11 月 15 日にかけて、国際エチオピア学会に参加発表するために、エチオピア連邦共和国ディレダワ市へ渡航した。今回の渡航は、今年度計画している研究活動のなかでも、③研究発信にかかわる活動にあたる。学会では、アフリカの持続型基盤の発展に寄与するものつくりに関わる在来の知（local knowledge）の習得過程に関して発表をおこなった。国際エチオピア学会は、さまざまな分野の研究者が介する地域学会であり、人類学的な観点からだけではなく、教育や開発に関わる専門分野の研究者にも、その研究成果を発信できた。その後、アジスアベバ大学およびアジスアベバ大学エチオピア研究所南オモ研究センターにおいて、博物館展示に関わる資料収集およびうちあわせをおこなった。

3．派遣中の印象に残った経験や体験

今回の学会は、当初フランスで学会を発表する予定であったが、近年エチオピア国内の地方大学の設備が充実してきたことにともない、エチオピア東部のディレダワで学会を開催した。これまで、派遣者が参加した学会は、エチオピア以外のヨーロッパで２回、エチオピア国内の場合はアジスアベバ大学での開催であったので、今回エチオピアの地方大学で開催されたことはさまざまな意味で非常に印象ぶかいことであった。

ディレダワは、エチオピア東部の地方都市ハラールの近くに位置し、ジプチや中東に暮らす人たちの避暑地として多くの観光客を受け入れてきた。宿泊設備や大学の設備は想像していた以上に充実していた。電気の供給も安定しており、学術大会開催中に停電のため発表が滞るということはほとんどなかった。また、学会の事務局であったフランスの研究者チームが、ディレダワ市内に関する詳細でディレダ

ワの人びとの生活に密着した利便性の高い情報を冊子としてまとめて提供してくれたことにより、観光として来訪するのでは経験できないような場所へも訪ねることができた。これも、それぞれの地域に長く滞在して調査研究をつづけている研究者が準備した学会だからこそであったと実感した。

今回のディレダワでの学会が成功裡におわったことにより、次回以降の学会の候補地にエチオピア国内の地方大学の名前が多数あがってきたこともまた印象的なことであった。エチオピアを囲む環境や状況は、設備や人員等のことで未発達であったり未経験である部分があるが、今回の学会のように、地方の大学での開催が実現することは、エチオピア国内において地方の人びととネットワークを確立するよい機会であり、今後も学会への参加発表を通じて、そのプロセスに関わっていくことができたらと考えている。

4. 目的の達成度や反省点

派遣者は、国際エチオピア学会へ 2003 年から参加・発表を続け、今回で４回目の発表をすることができた。１回目に発表した際は、院生であったこと、また、研究テーマであるエチオピアの土器つくりの実践について、エチオピアやアフリカなどより広い地域や現代的な課題のなかで自らの研究を十分に発信することが困難で、なかなか海外の研究者と研究テーマについて意見交換などすることがむずかしかったが、今回の発表では、数人の研究者とテーマについての意見交換ができるようになり、小さな地域の事例をより広い地域の状況とも関連づけるような発信の仕方ができるようになってきたと実感できた。アジアやアフリカにおける持続的な生存基盤を考える上で、ほかの地域の状況について研究者と意見交換できることは貴重なことであり、この研究課題においても一定の達成を得る事ができたと考えている。

5. 今後の派遣における課題と目標

この研究課題のなかの研究発信という活動にたつと、今回はエチオピア国内の現状と、エチオピアにおいて研究活動を続けている海外の研究者と当該テーマについて一定の意見交換ができたと考えている。今後は、習得に限らず、ものつくりにおけるさまざまな在来の知の共有と配分の諸相のなかでも、ものの廃棄とそれにかかわる在来の知との関連や博物館展示における在来の知の提示についての研究成果を発信することによって、アジア・アフリカにおける持続型生存基盤の発展に寄与することを目指す。

写真１　派遣者が発表している様子

写真２　エチオピアのディレダワ市ではじめて国際エチオピア学会が開催された

写真３　基調講演でバフル博士が講演している様子。９月にエチオピアの首相が亡くなったことに関連して、エチオピアの政治的変化と社会生活について歴史的な検討をおこなった。